

# 佐渡ジオパーク基本構想

金と銀の島でたどる 3 億年 日本海 3000 万年  
佐渡島 300 万年の旅と ひとの暮らし!



国指定天然記念物及び名勝『佐渡小木海岸』（宿根木）



佐渡をジオパークに

平成24年10月

佐渡ジオパーク推進協議会

未来へ、伝え残したい

# 「大地の遺産」豊かな島

「日本海・佐渡島」の成り立ちを知る

そこには、『発見・学び・楽しみ・交流』の旅がある。

## 《 目次 》

はじめに .....	3
I ジオパーク(Geopark)とは .....	3
II 佐渡島の概要 .....	5
III 背景 .....	6
IV 佐渡のジオパークの特徴 .....	8
V 基本的な考え方 .....	10
VI 佐渡のジオパークづくり .....	12
おわりに .....	13

(表紙タイトル説明) 3億年は、最も古い紡錘虫化石を含む石灰岩の礫の年代、3000万年は、日本海ができる準備段階を示す火山岩の年代、300万年は、佐渡島が深海底から隆起し海上に現れたことを示す地層の年代である。

## はじめに

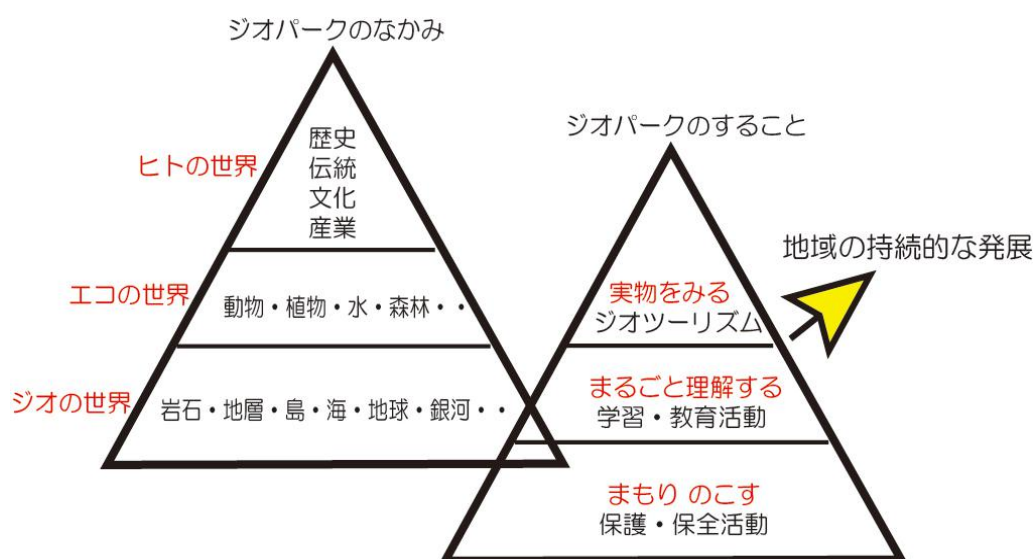
日本海に浮かぶ最大の島、佐渡島は、その豊かな自然環境が注目され、島の大部分が名勝や自然公園に指定されてきました。そうした特色ある自然を活かして、この島を舞台に「ジオパークづくり」を推進し、世界に発信する取組みをはじめます。

この基本構想では、ジオパークの理念や目的を示し、どのような将来像を目指して佐渡がジオパークに取り組むのかを提示します。

## I ジオパーク (Geopark) とは

ジオパークという言葉は、ジオ（地球・大地）とパーク（公園）という、2つの言葉を合わせた造語です。ジオに親しみ、ジオを学び、ジオを楽しむ場所、それが『ジオパーク』です。山や川をよく見て、その成り立ちと仕組みに気付き、生態系や人間生活との関わりを考える場所です。足元の地面の下にある岩石から宇宙まで、数十億年の過去から未来まで、山と川と海と大気とそこに住む生き物について学習する、つまり地球を丸ごと考える空間を指しています。

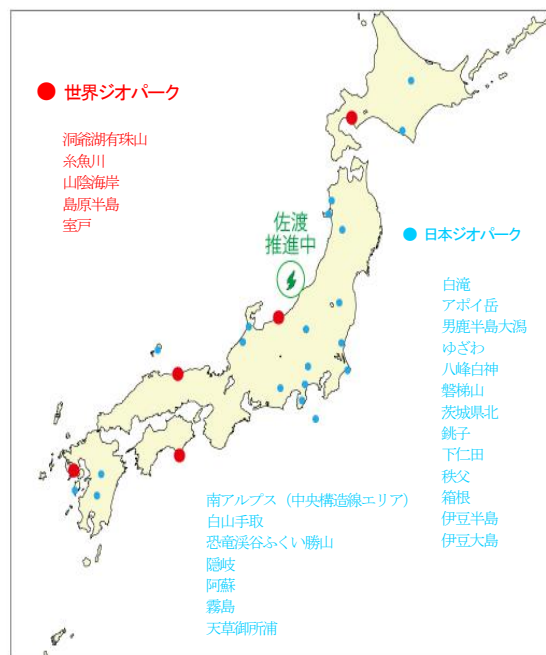
どこにでもある地形は、通常それを見ただけでは楽しめません。しかし、ガイドが台地のでき方や、人を含めた生き物の暮らしがいかに関係しているかを説明すると、多くの人は興味を持ちます。地形や地層の露頭など、一見、なんの変哲もなく、これまでは観光の対象にならなかったものでも、科学的な知識の積み重ねとガイドという役割を担う人がいることによって、意味を持ち始めます。時には立派な学習活動の場となり、また時には知的側面を持った観光の対象となるのです。このような仕組みを積極的に作っていく取組みがジオパークの活動です。ジオパークとは、地域の自然を保護し、それを学習・教育に活かし、観光客を受け入れ、地域の活性化を図ろうというものです。



## 1 ジオパークの状況は

現在日本には、日本ジオパーク委員会(JGC)が認定した25地域の「日本ジオパーク」があります。また世界には、世界ジオパークネットワーク(GGN)が認定した「世界ジオパーク」があります。現在その数は、世界27カ国88地域で、国内25地域のうち、糸魚川(新潟県)、洞爺湖有珠山(北海道)、島原半島(長崎県)、山陰海岸(鳥取、兵庫、京都)、室戸(高知県)の5地域が、世界ジオパークに認定されています(※注:認定地域数は平成24年9月現在)。

持続的な方法で地域を発展させるジオパークは、認定を受けると4年に1度の再審査によってその適性や活動歴が定期的にチェックされ、資産の維持と向上が求められます。



## 2 世界ジオパークと世界文化遺産の違い

世界ジオパークは、ユネスコの支援によって2004年(平成16年)に設立された「世界ジオパークネットワーク」が認定する自然の公園で、地球科学的に貴重な遺産を保護しつつ、それらを地域の教育や科学の振興、及び観光事業に活用し、持続可能な方法で地域を活性化させることが要求されます。

これに対し世界文化遺産は、1972年(昭和47年)に開催されたユネスコ総会において採択された「世界遺産条約」に基づき、ユネスコ(国際連合教育科学文化機関)が登録するもので、「文化遺産」、「自然遺産」、そしてそれら両者の要素を兼ね備えた「複合遺産」の保護を目的としています。

世界文化遺産は対象物の保護に重きを置いているのに対し、ジオパークは、対象地域を保護しながらそれらを持続的に活用することに重きを置いている点に違いがあります。

### 世界ジオパークと世界文化遺産の違い

項目	世界ジオパーク	世界文化遺産
対象	優れた大地の遺産と活動	顕著な普遍的価値をもつ遺跡や建造物
目的	保護と活用(教育・科学・地域振興)	保護
開発	可能	禁止
地域活性化	主たる目的	付随するもの
審査	4年に1度の再審査	6年に1度の再審査
機関	世界ジオパークネットワーク(GGN)/ユネスコが支援	ユネスコ(世界遺産委員会)

## II 佐渡島の概要

佐渡島は新潟から40キロメートルにある離島で、日本海に浮かぶ9つの島の中で最も大きな島です。また鉱山のある唯一の島です。大佐渡山地と小佐渡山地が北東-南西方向にのび、その間に国中平野があります。大佐渡の北方の海底には佐渡海嶺が同じ方向にのびています。一方、佐渡島の西側には富山湾から日本海盆まで達する富山舟状海盆があります。糸魚川-静岡構造線から佐渡島の西を通り奥尻島付近にのびる地域は日本海東縁帯と呼ばれ、地震が多い地域です。

佐渡島の大部分は国定公園や県立自然公園に指定されると共に、海府海岸や小木海岸などの多くが天然記念物や名勝に指定され、豊かで美しい自然が多く残されています。暖流の影響で、冬は本州に比べると降雪量も少なく、南限・北限の植物を見ることができます。四季の変化に応じて咲く花々が豊かな島の表情を作り出しています。

また、佐渡の文化は、流人たちがもたらした「貴族文化」、金山の開発による江戸からの「武家文化」、商人・船乗りが運んだ「町人文化」の3つの文化が混然一体となって独自の文化を育て、「佐渡は日本の縮図」といわれています。

2008年(平成20年)から試験放鳥を始めたトキの野生復帰の取組みは、2012年(平成24年4月)、国内の自然界で36年ぶりとなる「ひな」の誕生につながり、全国から注目を浴びています。

### ■ 国定公園、県立自然公園、国指定天然記念物等及び日本地質百選

国定公園	佐渡弥彦米山国定公園(1950年)
国指定天然記念物及び名勝	佐渡小木海岸(1934年)
国指定名勝	佐渡海府海岸(1934年)
国指定天然記念物	平根崎波食甌穴群(1940年)、小木・御所サクラ(1928年)など
国指定史跡	佐渡金銀山遺跡(2011年名称変更)など
国指定特別天然記念物	トキ(1952年)
日本地質百選	佐渡金山(2007年)、佐渡小木海岸(2007年)
県立自然公園	小佐渡県立自然公園(1959年)
県指定自然環境保全地域	上の平自然環境保全地域(1989年)
県指定天然記念物	乙和池の浮島及び植物群落(1963年)、杉池・紅葉樹林(1965年)、佐渡鉱床の金鉱石(1958年)など
県指定天然記念物及び名勝	台ヶ鼻(1973年)
県指定史跡	新穂玉作遺跡(1952年)、鎮目市左衛門墓(1958年)、岩屋山石窟(1972年)など
市指定天然記念物	沢根貝立層(2004年)、関の鏡岩(2004年)
市指定名勝及び天然記念物	沢根崖(2004年)

## Ⅲ 背景

### 1 3つの世界的な遺産

佐渡市は重要施策として、「金と銀の島でたどる 3 億年 日本海 3000 万年 佐渡島 300 万年の旅とひとの暮らし!」をテーマとする佐渡ジオパーク、「金を中心とした佐渡鉱山の遺産群」をテーマとした世界文化遺産、そして、「トキと共生する佐渡の里山」をテーマとした GIAHS（世界農業遺産）<sup>ジアス</sup> の 3 つの遺産に、積極的に取り組んでいます。これらの施策は、別々のものではなく、金や里山は佐渡の大地（ジオ）の歴史と深い関わりを持っており、他の地域にない魅力的な相乗効果を生み出すことにつながっています。

佐渡の金銀山は、人が住む遙か以前の大昔に起こった火山活動や地殻変動によって、作られた金や銀を含む岩石が地表に現れ発見されました。火山の噴火や地震は人間にとっては大災害となりますが、そのような大きな大地の変動があったからこそ、佐渡の金銀山があるのです。先人たちは、数千万年前の火山活動により時を越えてもたらされた「自然からの恵み」を得て、鉱山の文化を花開かせ、様々な歴史を生み出してきました。かつて、日本一の産出量を誇った佐渡金銀山には多くの人々が集まり、その人々の食糧をまかなうために広く新田開発が行われました。低地で水の豊かな国中平野、また大地の変動を物語る段丘面や地すべり地の上には、稲田が広がっています。

佐渡のジオパークは、世界文化遺産「佐渡金銀山遺跡」や、GIAHS（世界農業遺産）<sup>ジアス</sup> 「トキと暮らす郷づくり」を育んだ佐渡の大地の歴史を、3 億年前から現在までのいろいろな時間にタイムスリップして見ることができる「公園」です。

ジオパークの取組みで、「対象を保護しながらそれらを持続的に活用」します。そして、佐渡が持っている豊かな自然を保護しながら、幅広く活用して『地域の発展』を目指します。「市民が生き生きと暮らせるために」を念頭に置きながら、地域、民間団体、調査・研究機関、行政等が協働してジオパークの推進事業に取り組んでいきます。

#### ◆ 世界文化遺産とジオパーク

佐渡金銀山遺跡は 2010 年（平成 22 年 11 月）、「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」として世界遺産暫定リストに記載されました。佐渡の金銀山の歴史は古く、平安時代の「西三川砂金山」、戦国期の「鶴子銀山」や「新穂銀山」、江戸幕府の財政を支えた「相川金銀山」などが知られています。今後、このような歴史的・文化的財産を「世界文化遺産」に登録し、佐渡の金銀山を将来にわたり保護していくことを目指しています。

この金銀山を語るうえで、大昔の火山活動によって形成された金鉱脈や砂金は、ジオパークと深い関係があります。

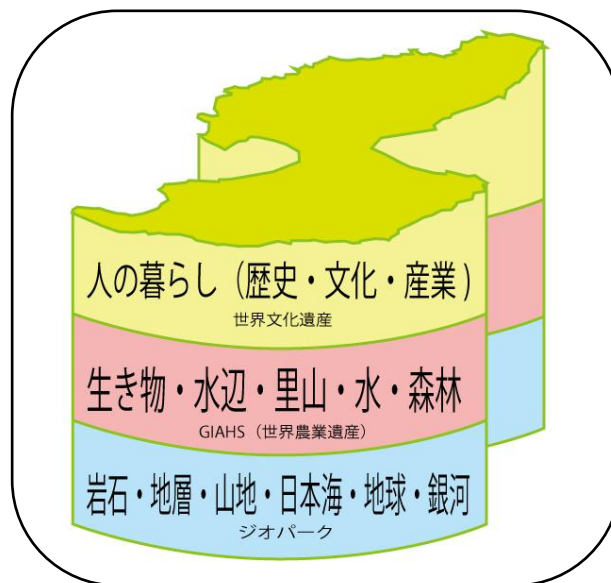
#### ◆ GIAHS（世界農業遺産）<sup>ジアス</sup> とジオパーク

GIAHS<sup>ジアス</sup>は、古くから受け継がれてきた伝統的な農業や、農村の暮らしを未来に守り伝えていく取り組みです。トキとの共生を目指してきた佐渡の農業や、受け継がれてきた伝統的な農村文化などが評価さ

れ、2011年（平成23年）に先進国では初めて<sup>ジアス</sup>GIAHS（世界農業遺産）に能登半島と共に認定されました。

トキのえさ場となる里山の地形は、大昔の地殻変動によって作られたものであり、その土壌で栽培された農作物は、まさに大地の恵みです。

**ジオ（大地）の上に、生き物と人々の暮らしがあり、歴史や文化が生まれたのです。**



## 2 歴史的な背景

ユーラシア大陸の端で、約3000万年前から約1300万年間に激しい火山活動が起きました。この火山活動により、地下には金や銀の鉱脈ができました。火山活動のもとになった地下のマントルのつきあげにより、大陸の端は割れ、その割れ目は次第に大きくなり、佐渡を含んだ(原)日本は南に移動し、1650万年前にほぼ現在の位置に達しました。大陸と(原)日本の間に海水が進入し、(古)日本海ができました。300万年から始まった隆起運動で、島には1000mを超える大佐渡山地ができ、そして佐渡は日本海に浮かぶ美しい島になりました。

佐渡は平安時代から金の島として知られ、戦国時代には新穂・鶴子銀山が、そして相川では金や銀が約400年前の江戸時代の初めに発見され、その鉱脈は当時日本一の規模を誇る大きなものでした。人口数万人の鉱山町が突然相川に現れ、この人々を養うために新田開発が進められ、水田面積は約1.6倍に拡大したと言われています。国中地域の段丘面上の広い土地も水田としてこの時期から開発されてきました。山地の隆起に伴う山崩れでできた崩壊斜面や海岸段丘にも棚田が開かれ、以後、営々と稲作が続けられています。

## IV 佐渡のジオパークの特徴

### 1 佐渡島の生い立ちとロマン

佐渡島の地形や地質を見ることにより、3億年前の姿にはじまり、日本海の誕生前の歴史から、日本海の誕生の歴史、そして島の誕生と成長の歴史を学ぶことができます。佐渡島の生い立ちは、次の4つのステージに区分できます。

#### (1) 太古の海の時代

数億年前の佐渡は、大陸の周りの深海底に位置していたことが分かっており、泥岩や海底火山岩などに由来する緑色岩が堆積する中生代の地層が広がっていました。その地層には、約3億年前の年代を示す<sup>ぼうすいちゆう</sup>紡錘虫化石を含む石灰岩の礫や、約2億年前の年代を示す<sup>ほうさんちゆう</sup>放射虫化石を含む<sup>けつがん</sup>頁岩などの地層が見出されています。また、地下深いところでマグマが固まった<sup>かこうせんりよくがん</sup>花崗閃緑岩や<sup>かこうがんるい</sup>花崗岩類が大佐渡山地最北部や小佐渡山地中部に分布しています。

#### (2) 陸上火山活動の時代と含金銀石英脈の誕生

大佐渡・小佐渡山地や国中平野の地下には、膨大な火山岩類が広く分布します。この火山岩類は、約3000万年前から1700万年前の約1300万年間の年代を示し、ユーラシア大陸の端で陸上火山活動が広範囲で続いていたことを示しています。この火山活動は、日本海形成の準備段階にあたります。

この時代に活動したマグマの周辺では、高温・高圧の水（熱水）が形成され、そこに金や銀など有用な金属が溶け込みました。有用な金属を含んだ熱水は、断層に沿って上昇し、温度・圧力の低下によって沈殿し、金や銀を含む<sup>いんせつ</sup>鉱床となりました。この様子が残っている見学エリアが島内各地にあります。佐渡金銀山の<sup>いんせつ</sup>鉱床は、過去の実績で日本一の規模を持ち、その掘削の跡は、他の追従を許さない状態でよく保存されており、見学することができます。

#### (3) 日本海の誕生から深海へ

大陸の端の割れ目は広がり、やがて切り離されて陸地は南に移動し現在の位置に達しました。大陸と日本との間に海が進入し日本海ができました。その後海進（海が広がる現象）が広く起こり、地殻変動もあって陸地は海底下に没しました。日本列島の各地、特に日本海側においては、約1,650万年前には浅い海成層がそれ以前の火山岩類の上に重なる不整合が形成されました。とくに佐渡島では、この現象をよく観察できる露頭や、浅海海洋動物の化石がこの海成層から発見されています。

この海進は、現在の日本海にいたる大海となりました。1500万年前から1000万年前には海が深くなり、そこに積もった珪藻の遺骸が大佐渡や小佐渡山地の南部に珪藻土の地層になって残っています。また、これらの地層に挟まって枕状溶岩などの水中火山岩類も存在します。小木半島の枕状溶岩はその代表で、海底火山が活動していたことを示しています。以上のような地層の観察によって日本海の深海底の変遷を知ることができます。

小木半島の宿根木集落には日本海を命名したとされる柴田収蔵の生家や、当時の設計図を使って



実物大で復元された千石船などがあります。

#### (4) 佐渡島の誕生と成長

佐渡島では、海底から隆起し標高 1000m 以上に成長した過程を観察することができます。特に、鮮新世以後の約 300 万年前の時代を示す海成層と段丘堆積物は、国中平野の地下にある地層に残されていて、国中平野の生い立ちのドラマをかなり詳細にたどることができます。平野は人々の活動の場であり、自然と人がかかわるドラマが展開した所でもあります。佐渡島の隆起によって人が生活をする場所が作られたのです。

## 2 佐渡島の特徴

周辺を海に囲まれ、自然豊かで里山の多い佐渡島には、貴重な自然遺産のほか多様な生き物などがあり、訪れた人々を楽しませてくれます。

### ① 自然景観

荒波と島の隆起運動が造り出した雄大な海岸美を有した島です。国指定の「佐渡弥彦米山国定公園」や名勝の海岸があります。

### ② 大地の遺産

世界に誇れる大地の遺産である金銀山の島です。佐渡金銀山遺跡は、2010 年 11 月「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」として、世界遺産暫定リストに記載され、今後世界遺産登録を目指します。

### ③ 動植物

特別天然記念物のトキと共生する島です。南方系や北方系の植物が見られ、神秘の天然杉や低い山にも高山植物が自生する島です。

### ④ 歴史・文化

縄文の時代から人々が生活し、弥生時代の玉作り遺跡があります。今も多くの有形・無形の文化財が残る、歴史と文化に富んだ島です。

### ⑤ 自然環境

自然環境を大切にし、エコアイランドを推進している島です。

### ⑥ 農業

弥生時代から稲作が発見され、今でも棚田が大切に維持されています。トキ認証米、おけさ柿、ルレクチェ（西洋梨）などが生産されている島です。

**⑦ 林業**

薪炭材や建築材に利用されなかった一部の奇形杉の木が、大佐渡には多く残っている島です。今では、トレッキングコースとして整備されています。

**⑧ 水産業**

近海にブリ、イカ、カニや甘エビの豊富な漁場があり、貝類・海藻類と共に海の幸が豊かな島です。

**⑨ 商工業**

味噌、水産物加工、海洋深層水、製塩、窯業などがあり、日本酒の蔵元が多くある島です。

**⑩ 伝統芸能・工芸**

能、鬼太鼓、文弥人形やのろま人形などの伝統芸能が息づき、今に伝わる郷土芸能を大切にする島です。無名異焼をはじめるうがたちゅうきん蛸型鑄金、裂き織や竹細工などの工芸が有名です。

**V 基本的な考え方**

ジオパークは、「大地と地質遺産の保全」、「学習・教育への活用」、「ジオツーリズムの推進」を行い、それにより「持続可能な地域社会を実現すること」を目的としています。この趣旨に基づき、佐渡のジオパークは次のように推進していきます。

**1 3本の柱**

**(1) 保全と整備**

ジオパークを展開していくうえで、素材となる露頭や地質、そして海辺の景観等を確実に保全しなければなりません。佐渡には先に述べたとおり国定公園や名勝・天然記念物などに指定されてきたことで、無秩序に開発されることなく自然のまま保存されている場所が多くあります。

今後、これらの区域にあるジオポイント（見学地）を活用する際には、周囲の景観に配慮し調和のとれた導入を図ることが必要です。そのために自然公園法をはじめ、文化財保護法や河川法などを順守することは当然ながら、関係機関と綿密に連携を図りながら活用を進め、貴重な動植物を含む自然環境を次世代に残していきます。

**(2) 学習・教育への活用**

佐渡島に暮らす私たちにとって目の前の風景は、昔から馴染みのあるありふれた光景です。しかし、そのありふれた風景の中に佐渡島や日本海が作られてきた証拠や重要な情報が数多く残っています。それらの情報や実物を見て「気づく」ことが重要で、身近な大地と自分たちの生活が密接に

---

関わっていることを知ったとき、興味と探究心が生まれます。佐渡のジオパークは、島内外の子どもから大人まで多くの人々に学習と研究の場を提供し大地の成立ちや環境問題、そして地球のしくみなどを学び「理解」することができます。実際に大地が変動した証拠を目の当たりにし自然のダイナミクスさを理解してはじめて、その地域の自然を保全した適正な活用につながります。

また、東日本大震災以降、防災教育の必要性が高まっており、地形・地質の観察から地震や津波が起こるメカニズムを認識することにより、防災意識が向上し、いざという時の避難行動にもつながります。防災担当の関係機関と連携し防災意識の高揚と向上につなげます。

### (3) ジオツーリズムの推進

近年、保護と観光を両立させるエコツーリズムがブームとなっており、ガイドを付けて動植物を対象に観察する少人数のグループ旅行をよく見かけます。この対象を地形や地層、そして、その上に成り立つ文化・歴史などにしたものが「ジオツーリズム」と呼ばれています。

ジオポイントには、地形・地質に限らず、海から眺める海岸景観、動植物、文化・歴史的施設や飲食店や土産屋も含まれます。そして、それらのポイントを案内するガイドは不可欠です。

旅行者が楽しく見学するためには、コース設定、理解しやすい物語（ストーリー）、ポイントを紹介する解説板やガイドブック、体験活動、胃も心も満たす食事と土産、その土地の魅力を存分に堪能してもらうために総合的な仕組みがなければなりません。

佐渡を訪れる観光客は、団体よりグループの割合が増えています。この旅行形態の変化に、ジオツーリズムは応えることができます。また、時間をかけてゆっくりと巡り、地域住民と親睦を深めることは、リピーターの増加につながり、新しい形の観光となります。

## 2 持続可能な地域社会の実現へ

3本の柱である地質遺産の保全と整備、学習・教育への活用、ジオツーリズムの推進を展開することで地域の人々が地元の宝物に気付き、そして、地域に誇りを持つことこそが地域の振興を目指す上で最も大切なことと言えます。

ジオパークの理念は、持続可能な地域社会の実現です。継続的な活動を続けるのは、そこに暮らす人々です。

自分たちの地域にとって大切な地質や地層をどのようにして保護するのか。見慣れた身近な風景にどんな意味があるのか。自分たちも楽しみながらどう観光客を受け入れて満足してもらうのか。すべてその地域に住む人たちが関わっています。そういう意味では、ジオパークを推進することは、自分たちの地域の宝を探し活用する人材が必要です。魅力的な人材が増えることにより、佐渡は元気になり、地域の振興・地域の活性化につながるのです。

## 3 日本、そして世界に向けて

私たちの住む佐渡島が素晴らしい島だと認識することは当然ながら、その魅力的な環境を、島外の、そして世界の人々に知ってもらえるように発信することが大切です。

佐渡島が日本や世界ジオパークから認定されると、ジオパークネットワークを通じて島外や世界の人々との交流が増加します。

## VI 佐渡のジオパークづくり

地域住民、民間団体、調査・研究機関、行政等が協働して作りあげていくジオパークは、他の先進地の事例を参考にしながらも佐渡独自の仕組みを構築していかなければなりません。その地域の大地の特徴を把握し、そこに既存の文化や歴史を取り込み、誰もが楽しみながら学べる物語（ストーリー）を展開することが重要です。

佐渡ジオパーク構想を実現するためには、特徴的な地形・地質や重要な情報を残す露頭など見学地を「ジオポイント」としてピックアップします。貴重な動植物の生息地、特徴的な文化財や歴史的に重要な場所、食事処も大切なジオポイントです。そして、関連のあるジオポイントをまとめて巡る順路を「ジオコース」とします。また、まとまったジオコースの集合地帯を「ジオサイト」と呼び、全てのジオサイトをまとめたものが「ジオパーク」です。

現在想定しているジオサイトは 10 か所です。これらのジオサイトのそれぞれについて、次のような方針で取組みます。

- それぞれのジオサイトに、人々の生活との関わりを重視した歴史的なストーリー性を持たせます。地域の方々の協力を得て、地元の歴史、民話、エピソードや言い伝えなどを加え楽しめる工夫をします。
- ガイドマップや説明板でジオポイントの見どころを分かりやすく解説します。
- 地形や地質の学術面の調査や研究を継続的に行い、コースやポイントは状況に応じて見直し、親しみやすい場所とします。
- 推進母体となる「佐渡ジオパーク推進協議会」を設立し、世界ジオパークネットワークのガイドラインに沿って、社会・経済・文化が持続性のある発展を続ける取組みを実施し、市民の郷土愛の醸成を図ります。
- 市民の自主性・自発的な参画は、ジオパークを推進するうえで大きな原動力となります。民意による協力団体の発足後は、佐渡のジオパークを発展させていくパートナーとして、情報交換等を行いながら密接な関係を築いていきます。

---

## おわりに

現在、国内だけではなく世界各地の観光地で、開発や多くの人を訪れることにより環境悪化が進み、貴重な自然が破壊されてしまう事態が発生しています。しかし、破壊されないように立入制限をすると、そこに住む人々の暮らしや経済活動に影響が出てしまいます。保全・保護の程度や活用の仕方に違いはありますが、地域の自然を保全・保護しつつ、そこに暮らす人々が恩恵を受けるような仕組みづくりが必要です。その課題に応えられるのがジオパークであり、佐渡がジオパークに取り組む目的となっています。

佐渡ジオパーク推進協議会は、この基本構想の理念に基づいて推進活動を続けていきます。

### 佐渡ジオパーク推進協議会

(事務局：佐渡市教育委員会社会教育課ジオパーク推進室)

〒952-0021 佐渡市秋津 1596 番地 (両津郷土博物館内)

TEL:0259-23-2101 FAX:0259-23-4820

E-mail:sado-geopark@city.sado.niigata.jp